

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：12401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23652068

研究課題名(和文)「イソップ寓話集」の流布と変容 イタリア・ルネサンスから日本の伝統へ

研究課題名(英文) Influence and transformation of Aesop's Fables in Japan

研究代表者

伊藤 博明 (ITO, Hiroaki)

埼玉大学・教養学部・教授

研究者番号：70184679

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円、(間接経費) 510,000円

研究成果の概要(和文)：イソップ寓話集は、ヨーロッパのルネサンス期の文化において、シュタインヘーヴェル版(1447年)を中心に広範に受容され、イエズス会の教育課程においても大きな役割を演じた。それは16世紀末に日本に導入されて、『イソポのハブラス』と『伊曾保物語』という物語を生みだした。その典拠は、シュタインヘーヴェル版をもとにしたスペイン語版イソップ寓話集とともに、ドロピウス版イソップ寓話集、さらには、いくつかの道徳的説話集に求められる。また江戸時代においては、洋画家司馬江漢が、ヨースト・ファン・フォンデルによる、エンブレム・ブックの形態をとったオランダ語版イソップ寓話集から影響を受けて作品を制作している。

研究成果の概要(英文)：In the culture of European Renaissance, Aesop's Fables were largely accepted in the culture of European Renaissance, mainly through Schteinhavel's edition (1447) and its following many editions. And they played an important role in the educational system of the Jesuits. They were introduced into Japan in the end of 16th century and urged to publish "Isopo no fabulas" and "Isopomonogatari" in Japanese. Their sources were not only the Spanish versions of Schteinhavel's Aesop, but also Doropius' Aesop and other moral stories. In the Edo period, Shiba Kokan, a western-typed painter, worked under the influence of the Dutch Aesop's Fables of Joost van Vondel in the form of emblem book.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学(英文学を除く)

キーワード：イソップ寓話集 イソポのハブラス 伊曾保物語 シュタインヘーヴェル イエズス会 司馬江漢 ファン・ファンデル エンブレム・ブック

1. 研究開始当初の背景

「イソップ寓話集」は、文禄2年(1593年)に『イソポのハブラス』が、わが国最初のヨーロッパ俗語文学の邦訳として現れ、続いて慶長・元和年間には文語体『伊曾保物語』が刊行された。その後は、仮名草子にその痕跡を留めることになるが、再度、江戸後期に「イソップ寓話集」はオランダ語によるエンブレム・ブック(図像とテキストを伴った教訓集)の一種として舶来される。司馬江漢は、その影響のもとに教訓的な詩画図と『訓蒙画解集』を作成した。申請者はかねてより、ルネサンス期イタリアの文化思想史の研究(『神々の再生』、東京書籍、1996年)またエンブレム・ブックの研究に携わっていたが(『綺想の表象学 エンブレムへの招待』、ありな書房、2007年)「イソップ物語」の日本への移入とその影響に関心を抱き、研究の一端は第7回国際エンブレム学会(2008年、ウィンチェスター大学)において「日本におけるオランダのエンブレム・ブックの受容」として発表した。

イタリアの人文主義における「イソップ寓話集」については、R・ガッリの博士論文(1978年)以来研究が蓄積され、また、多大な影響力をもったシュタインハーヴェル編『イソップ』(1476年)についても、G・ディックの大部の研究書(1994年)が存在する。『イソポのハブラス』と『伊曾保物語』の底本はめぐっては、小堀桂一郎氏の『イソップ寓話』(中公新書)および遠藤潤氏の『伊曾保物語の原典的研究』(風間書房)によって、上述のシュタインハーヴェル版に依拠していると推論されているが、問題点が多く残っている。申請者も、拙論「ポッジョ・ブラッチョリーニと『伊曾保物語』」(『埼玉大学紀要(教養学部)』、45巻2号、2010年)および「猫の首に鈴をつける」(1):アステールミオ『百話集』をめぐって」(『埼玉大学紀要(教養学部)』、46巻1号、2010年)にお

いて、部分的な探究を行った。他方、「イソップ寓話集」と司馬江漢との関係については、菅野陽氏の小論があるが、十全な研究はなされていない。

本研究は、シュタインハーヴェル編「イソップ寓話集」と中心として、ルネサンスの人文主義における同寓話集の流布とその諸形態を、続いてイエズス会における教育課程における同寓話集の意義について、またそれが日本におけるイエズス会の学院教育における位置づけについて考察した上で、2種類の邦訳が依拠した原典について考究する。さらに、司馬江漢と「イソップ寓話集」との関係について、彼が依拠したテキストを探究するとともに、『イソポのハブラス』以来の日本における伝承について考究する。こうして、「イソップ寓話集」の流布と変容を検討しつつ、ヨーロッパの人文主義伝統の、日本における受容の一端を明らかにすることによって、ヨーロッパ文化の日本への影響史の研究に寄与することを期している。

2. 研究の目的

本研究の目的は、第一に、イタリア・ルネサンスにおいて「再生」し、種々の内容と形態をとって流布した「イソップ寓話集」が、当時の人文主義において占めていた文化的な位置と、16世紀のイエズス会の教育課程において同寓話集が果たした役割について、第二に、イエズス会の海外布教政策の中で日本にもたらされた同寓話集が、1590年代以降の日本においてローマ字口語体『イソポのハブラス』、および文語体『伊曾保物語』という邦語版として成立した経緯について、第三に、江戸時代において新たにオランダから舶来された「イソップ寓話集」の司馬江漢への影響について、文献学的に厳密な諸テキストの比較検討を行うことにより、明らかにすることである。

3. 研究の方法

(1) ルネサンス期に刊行された「イソップ寓話集」のラテン語版および俗語版、とりわけシュタインヘーヴェル版とマルティン・ドープ(ドロピウス)版について、それらの内容とその変容について検討する。

(2) イエズス会の教育課程における「イソップ寓話集」の位置について、一般的な古典文学の学習も鑑みながら、「学事計画」などのイエズス会の文献資料を参照しつつ考察する。

(3) 『イソポのハブラス』と『伊曾保物語』の典拠について、シュタインヘーヴェル版およびルネサンス期刊の諸版、さらに種々の寓話集・教訓集を含めて探究する。

(4) 司馬江漢が参看した、オランダ語版「イソップ寓話集」について同定するとともに、彼の詩画軸および『訓蒙画解集』への影響を考察し、同書の英訳を含む研究成果を公表する。

4. 研究成果

(1) 「イソップ寓話集」は、イタリアでは15世紀の初頭から関心を得て、ロレンツォ・ヴァッラが初めてラテン語訳を刊行した。しかしルネサンス期において最も影響を与えたのは、シュタインヘーヴェルが1447年にウルムで公刊した『イソップ』である。これはラテン語とドイツ語の二国語版であるが、これをもとにしてフランス語訳(マシヨール版)、英語訳(キャクストン版)、スペイン語版、イタリア語版、オランダ語版が、その内容を異にしなから、15世紀後半から16世紀半ばまで200点以上が刊行されている。また、マルティン・ドープ(ドロピウス)やヨハネス・カメラリウスによって新たな「イソップ寓話集」が編纂されて、これもヨーロッパ中に広く影響を与えた。そして、これらの新しい編纂において特徴的な点は、元来はイソップに帰されていない物語集、たとえば、アプステミオの道徳説話集が付加されていることである。

(2) イエズス会の学院では、積極的に古典古代のテキストも自らの教育課程の中に取り入れており、『イエズス会学事規定』(1599年版)の「上級文法クラスの教師に関する規則」の第1条においては、文法を完全に修得するためのテキストが例示されている。ラテン作家ではキケロ、オウィディウス、カトゥルス、ティブルス、プロペルティウス、ウェルギリウスが含まれ、そしてギリシア作家の中では、聖クリュソトモスとアガペトスのともにアエソポス(イソップ)の名前が挙がっている。また、上記のシュタインヘーヴェル版「イソップ寓話集」は多数の挿絵を含んでいるが、このようにテキストとイメージによって道徳的な訓戒を説く、エンブレム・ブックという文学的形態をイエズス会は重視しており、この点からも「イソップ寓話集」が採り上げられて、宣教師によって日本に導入されたと考えられる。

(3) 『イソポのハブラス』と『伊曾保物語』の典拠については、これまで七つの寓話についてはシュタインヘーヴェル版に見いだされないことが指摘されてきた。その内の二つは、シュタインヘーヴェル版を原本して改訂・増補された、1456年刊行のスペイン語版「イソップ寓話集」に見いだされ、別の一つは、ポッジョ・ブラッチョリーニの『笑話集』に基づく、アステミオの『第二・百話集』からの逸話を含む、1542年リヨン版、あるいは1535年のチューリヒ版に見いだされる。しかし、他の寓話の典拠については確実な同定がまだできておらず、今後の課題としたい。

(4) 司馬江漢は、ヨースト・ファン・ファンデルによるオランダ語版「イソップ寓話集」(1671年初版)に基づいて、自らの作品を創作した。このファン・フォンデルの書物は、挿絵とテキストから成る典型的なエンブレム・ブックの形態を保持している。司馬江漢は、別のエンブレム・ブックであるヤン・

ライケンの『人間の営み』からも影響を受けて、詩画図のみならず、自らオリジナルのエンブレム・ブック『訓蒙画解集』を制作した。本研究ではこの書物の英語版を作成すべき、テキストの英訳や典拠の確認など基礎的な作業を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

伊藤博明「熊が舐める 生成と育成の伝承をめぐって」、『ユリイカ』、2013年9月号、140-156ページ。〔査読無〕

伊藤博明「プロクロスとフィチーノ『プラトン神学』と『パルメニデス註解』をめぐって」、『新プラトン主義研究』、第11号、2012年、17-34ページ。〔査読有〕

伊藤博明「キリシタン版とエンブレム(1)『平家物語』(1593)年版の題扉をめぐって」、『埼玉大学紀要(教養学部)』、47巻、2011年、17-32ページ。〔査読無〕

伊藤博明「フランシス・ベイコンと『古代人の知恵』」、『科学史研究』、50巻、2011年、18-14ページ。〔査読有〕

〔学会発表〕(計6件)

伊藤博明「キルヒャーとエジプトマニア」、『アタナシウス・キルヒャー・シンポジウム』、2014年3月8日、新潟大学

伊藤博明「イコノロジーの誕生」、『18世紀学学会』、2013年12月2日、新潟大学

伊藤博明「インプレーサからエンブレムへ フランシス・ベイコン『大革新』のフロンティスピースをめぐって」、『シェイクスピア学会』、2013年10月6日、鹿児島大学

Hiroaki Ito, "Missionaries and Images: On an Evangelical Illustrated Book Published at Rome 1573," 『ルネサンス研究会』、2013年5月15日、学習院女子大学

伊藤博明「キリシタン文学とエンブレム『ヒデスの導師』と『平家物語』の題扉をめぐって」、『ルネサンス研究会』、2011年7月9日、学習院女子大学

Hiroaki Ito, "Two Lions from Rome to Japan," 『Society for Emblem Studies』、30 July 2011, University of Glasgow, U.K.

〔図書〕(計6件)

ピーター・M・デイリー著、伊藤博明監訳『エンブレムの宇宙 西欧図像の誕生と発展と精華』、ありな書房、2013年、566ページ。

マイケル・バース、蓮池藍、松田美作子、牧野美希、植月恵一郎、高橋美和子、伊藤博明『イメージの劇場 近代初期英国のテキストと視覚文化』、英光社、2014年(「インプレーサからエンブレムへ フランシス・ベイコン『大革新』とその文化史的背景』、244(200-236ページ)を執筆)。

上村清雄、金井直、足達薫、喜多村明里、石井朗、伊藤博明、金山弘昌『フレスコ画の身体学 システィーナ礼拝堂の表象空間』、ありな書房、2012年(「預言者とシビュラ

キリスト教の普遍性と教会の革新をめぐって』、638(187-315ページ)を執筆)。

竹下正孝、山内志朗、堀江聡、青柳かおる、菊池達也、野元晋、伊藤博明、今義博、細田あや子、八巻和彦、手島勲矢、香田芳樹『イスラーム哲学とキリスト教中世3 神秘哲学』、岩波書店、2012年(「中世神秘主義における宇宙論 ビンゲンのヒルデガルトを中心に』、357(143-172)を執筆)。

___アビ・ヴァールブルク、伊藤博明、加藤哲弘、田中純『ムネモシュネ・アトラス』、ありな書房、2012年、765(1-13, 684-701)ページを執筆。

伊藤博明『ルネサンスの神秘思想』、講談社、2012年、434ページ。

6. 研究組織

(1) 研究代表者 伊藤博明 (ITO, Hiroaki)
埼玉大学・教養学部・教授

研究者番号: 70184679